

— 盛会のうちに平成11年度総会が終了しました。 —

6月12日(土)にHANDS総会が開かれ、平成10年度決算報告、事業報告、11年度予算案、事業計画案が承認されました。

出席者は11名。委任状は53名。ご協力ありがとうございました。

以下に、審議の内容を要約してご報告します。

会計報告について： (問) 貸借対照表が必要では？

(答) 今後、植林基金などの基金を含めて、資産、負債を報告します。

予算案について： (問) 現地出張が予算に含まれていないが。

(答) 会費収入が少なく、一般会計からは旅費、人件費を予算化できない。
当分現地出張は、助成事業のモニターが主目的で、一部は該当助成事業費から充当する。

なお、今年度から人件費について、ホーム・レジ、会報作成に当たる事務局非常勤職員1名の手当てを月額1万円として予算化した。

事業計画について： 新たに先住民族の「女性自立事業」を活動に含めることを承認。資金は、「女性自立基金」として一般会計と分ける。趣旨に賛同する会員や一般市民の寄付及び伝統工芸品の売り上げ収益を活動資金とする。

(詳細は、下記の森田奈美さんの記事をどうぞ)

会則改正について： 提案どおり承認。ただし、NPO法に基づく法人化を視野に入れた規約の整備を今後進める。

会報・例会：

会報は季刊(4,7,10,1月発行)として、内容を充実させる。
例会は、編集会議も兼ねて、4,7,10,1月の第2土曜日とする。
事務局作業日を新たに設ける：毎月第2、第4木曜日午後から。事務局にて。

— アガさんのお話と伝統的衣装マロンの多様な利用法の実演 —

地下資源開発や漁港建設に伴い、モロ(イスラム教徒)を含め先住民族(少数民族)が、居住地を追い立てられてきた歴史、また、つい昨年、ゲリラ掃討と称した軍による空からの銃撃があったピラーン族

コミュニティーの例など、開発の名の下に先祖伝来の土地を立ち退かなければならない先住民族コミュニティーの事例が紹介されました。

アガさんは、8月からしばらくミンダナオに戻り、

モロ女性センターで女性自立事業を指導するとともに、

先住民族コミュニティーの農村開発を支援されるそうです。

参加した会員で、アガさん持参の現地工芸品を購入させていただき、

HANDSが目指すものと重なる部分のあるアガさんのミンダナオでの

支援事業にささやかな協力をさせていただきました。

今後も私たちの活動への助言をいただけることと期待しております。 (事務局)



女性自立支援について

— 森田奈美 —

先日の総会で「少数民族の女性への支援もしていこう」と決まり、総会後も、山崎、北原、私で話し合いを持ちました。

私が現地滞在中に出会ったチボリ族を中心に組織されている「少数民族女性開発プロジェクト」(オーストラリア支援)の有志が集まって作った組合「カウヘッド／COWHEAD／女性の健康と開発のための組合」をまずは支援することから始めようということになりました。

女性達が健康的に生きていくことを学び実践し、また、働き、収入を得ることによって、その家族である夫や子どもたちの生活向上にもつながっていく…ということから、このオーストラリアの支援はかなり高い成果をあげていますが、そこではフォローしきれない草の根の部分で、私たちが彼女たちと何かできないだろうか…と考えているところです。ゆくゆくはカウヘッドの人たちがモデルとなり、ピラーンの女性達へも広がっていくように、まずは現地出張の際、カウヘッドの人たちと話し合いを持つ予定です。(次頁につづく)